

平成19年3月期  
決算説明資料

平成19年5月25日

 川重冷熱工業株式会社

# 平成19年3月期 決算概要

今期の売上高は、空調事業につきましては、機器本体ならびに改修改造工事・メンテナンスの受注残高が多かったことが影響し、前期比増となりました。

ボイラ事業につきましては、機器本体では大口案件の売上計上があったことと短納期の貫流ボイラが多かったことで増加し、併せて改修改造工事・メンテナンスも増加したことにより前期比増となりました。

利益面では、売上高増に伴う利益増およびコストダウン等により、経常利益、当期純利益共に前期比増となりました。

# 平成19年3月期 損益計算書



金額単位：百万円(百万円未満切捨て)

	当 期	前 期	前 期 比	備 考
売 上 高	18,563	17,927	103.5%	空調、ボイラ共に機器、改修改造工事・メンテナンスが増加したことによる
売上総利益	4,625	4,454	103.8%	売上高増に伴う増加
販売費及び一般管理費	3,957	3,833	103.2%	見積設計費、賞与増等
営業利益	667	620	107.6%	
営業外収益	30	18	166.7%	
営業外費用	111	97	114.4%	
経常利益	586	542	108.1%	
特別利益	46	—	—	貸倒引当金の戻入れ額
特別損失	10	0	—	油槽損傷に伴う修復費
税引前当期純利益	621	542	114.6%	
法人税、住民税及び事業税	343	386	88.9%	
法人税等調整額	25	101	24.8%	
当期純利益	304	257	118.3%	

# 平成19年3月期 貸借対照表



## 資 産

金額単位:百万円(百万円未満切捨て)

	当 期	前 期	前 期 比	備 考
流動資産	9,812	9,796	100.2%	
現金及び預金	9	36	25.0%	
受取手形・売掛金	7,708	7,599	101.4%	決算期末日が銀行休業日による影響
棚卸資産	1,706	1,825	93.5%	
繰延税金資産	310	292	106.2%	
その他流動資産	77	41	187.8%	
固定資産	4,339	4,304	100.8%	
有形・無形固定資産	2,194	2,164	101.4%	
長期繰延税金資産	1,285	1,269	101.3%	
投資その他の資産	860	870	98.9%	
資 産 合 計	14,152	14,100	100.4%	

# 平成19年3月期 貸借対照表



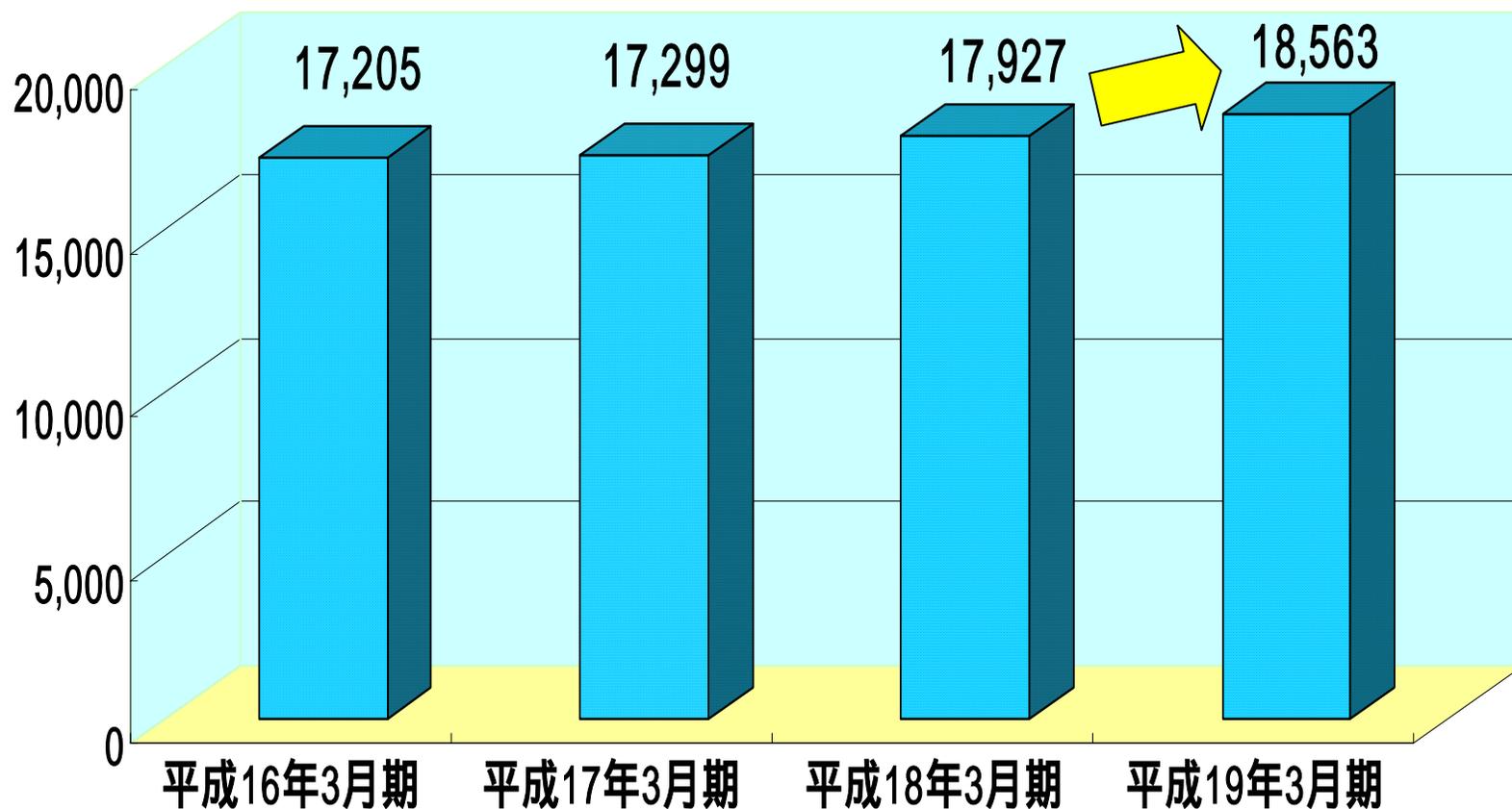
## 負債・純資産

金額単位:百万円(百万円未満切捨て)

	当 期	前 期	前 期 比	備 考
<b>流動負債</b>	6,769	6,972	97.1%	
支払手形・買掛金	4,715	4,323	109.1%	決算期末日が銀行休業日による影響 前期においては関連会社への出資。当期は当期純利益 があり、また期末銀行休日による仕入債務残高の増加等 による。
短期借入金	650	1,300	50.0%	
前受金	34	81	42.0%	
設備支払手形・未払金	130	117	111.1%	
その他の流動負債	1,239	1,150	107.7%	賞与引当金、製品保証引当金、未払費用等の増 加による
<b>固定負債</b>	3,139	3,074	102.1%	
退職給付引当金	2,987	2,936	101.7%	
その他固定負債	151	137	110.2%	
<b>負債合計</b>	9,908	10,046	98.6%	
<b>資本金</b>	1,460	1,460	100.0%	
<b>資本剰余金</b>	1,228	1,228	100.0%	
<b>利益剰余金</b>	1,341	1,341	100.0%	
(内、当期純利益)	(304)	(257)	118.3%	
<b>株式等評価差額金</b>	20	31	64.5%	
自己株式	10	8	125.0%	
<b>純資産合計</b>	4,244	4,053	104.7%	
<b>負債・純資産合計</b>	14,152	14,100	100.4%	

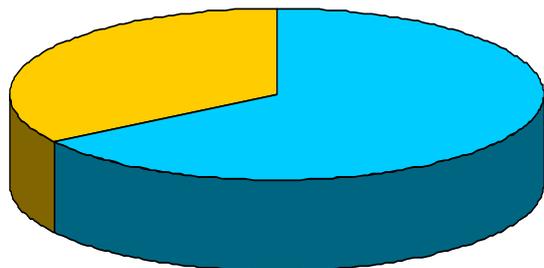
# 売上高の推移

金額単位：百万円



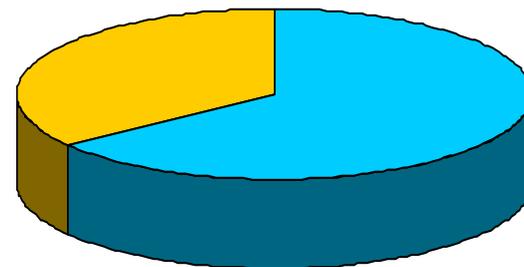
# 売上高構成比の比較

ボイラ事業  
34.4%



平成18年3月期

ボイラ事業  
35.2%



平成19年3月期

空調事業  
65.6%

空調事業  
64.8%

## 要因分析

空調事業も売上が増加しましたが、ボイラ事業の機器本体で水管ボイラの大口径案件の売上、大型貫流ボイラの売上増により構成比が変動いたしました。

## 空調事業

機器本体の売上高は、機器本体の受注残高が多かったことにより増加いたしました。

改修改造工事・メンテナンスの売上高は、景気の回復を背景に、当社関連業界の設備投資の活発化に伴い、増加いたしました。

## ボイラ事業

機器本体の売上高は、大口案件の売上計上があったことと短納期の貫流ボイラが多かったことで増加いたしました。

改修改造工事・メンテナンスの売上高は、景気の回復を背景に、当社関連業界の設備投資の活発化に伴い、増加いたしました。

**平成20年3月期 業績予想**

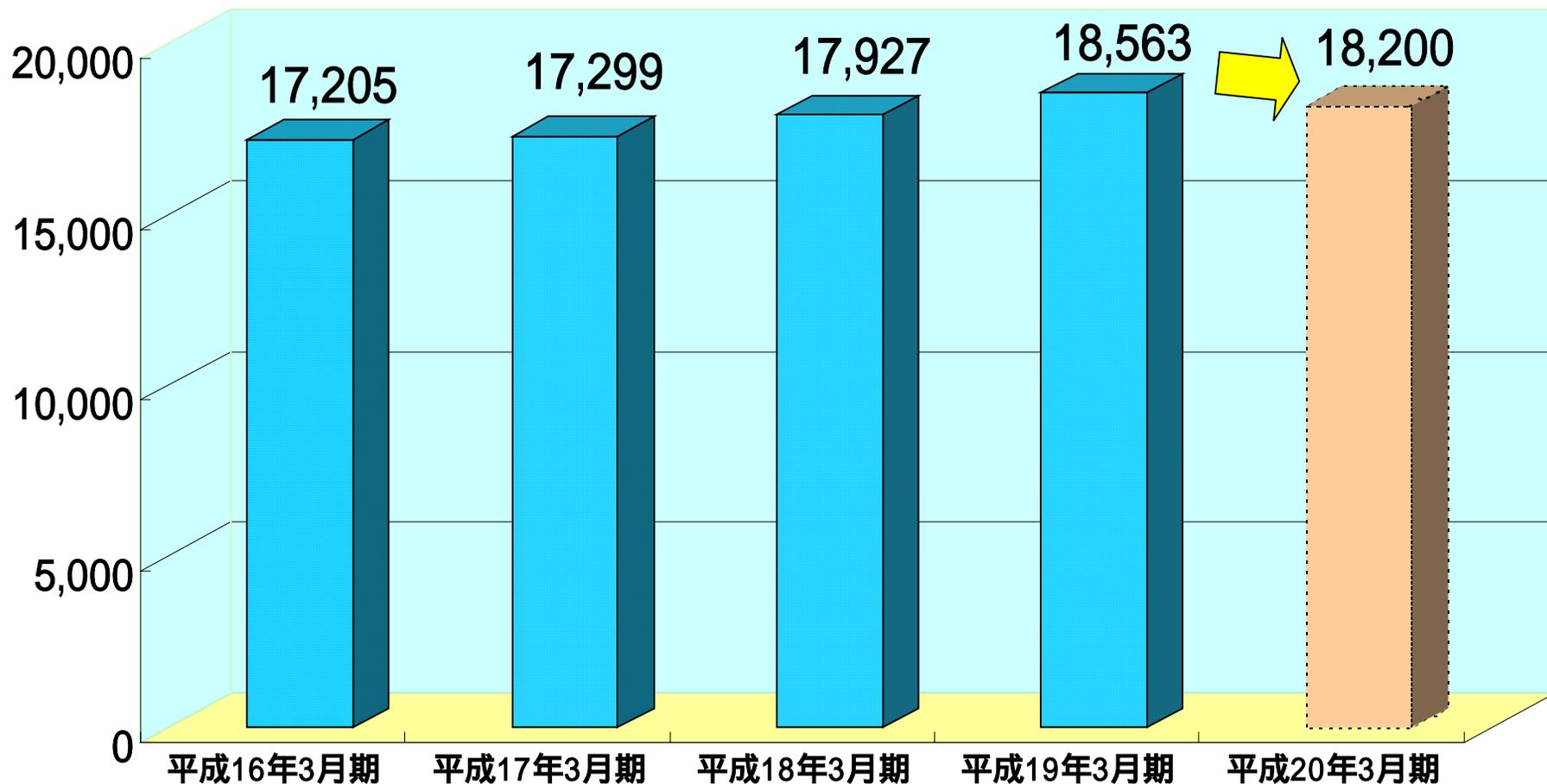
# 平成20年3月期の業績予想



金額単位:百万円(百万円未満切捨て)

	当 期	来期(予)	前 期 比	備 考
売 上	18,563	18,200	98.0%	
空調事業	12,037	11,998	99.7%	
ボイラ事業	6,526	6,202	95.0%	
営業利益	667	530	79.5%	資材費高騰の影響ならびに研究開発費等の費用増により減益
経常利益	586	490	83.6%	
当期純利益	304	240	78.9%	

# 売上の推移(予想)



## 空調事業

機器本体は、省エネルギー大賞の「省エネルギー センター会長賞」を受賞した三重効用吸収冷温水機の拡販に努める一方で、大規模空間をターゲットにした大型吸収冷温水機を市場投入いたします。

遠隔監視のメンテナンスシステム「テレメンテ」の普及および省エネルギー提案メニューの充実を図り、引き続き改修改造工事・メンテナンスの拡大に努めます。

## ボイラ事業

大型貫流ボイラ「イフリート」の制御性の特長、省エネルギー性を活かした提案をすることにより付帯設備を含めた機器の受注を目指します。

遠隔監視のメンテナンスシステム「テレメンテ」の普及および省エネルギー提案メニューの充実を図り、引き続き改修改造工事・メンテナンスの拡大に努めます。

参 考

# 当社の経営方針



当社は、「エクセレントカンパニーの構築」を目指し、顧客ニーズにあった商品を業界一級の技術で提供することにより適正利益を確保し、株主には適正な配当を行うとともに従業員および全事業従事者のために人間性豊かでゆとりのある業務遂行と暮らしを創造し続けながら、社会に貢献することを経営の基本方針としております。

当社の関連する空調業界では、今後も省エネルギーおよび余剰エネルギーを有効利用する機器の開発が活発化していくものと思われます。また、銅管をはじめとする資材費の高騰により利益が圧迫され、利益確保の厳しい状況が続くと思われます。

ボイラ業界では、貫流ボイラを中心とした市場構造には変化がないと思われます。

空調・ボイラ業界共に総需要は、ほぼ横ばいであり、新規需要の減少をリプレース需要が下支えする構造には変化はないと予想されます。

## 本資料に関する問合せ先



企画室 経営管理部

TEL 077-563-1111

### ご注意

本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で把握可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控え下さるようお願いいたします。